

【ジェントルハートプロジェクト：子どもアンケート調査結果概要】

回収期間：2012年10月～2013年5月

回収地：全国15都道府県30校（小学校13・中学校14・高校3）

回収数：8,361件

男子：4,371(53.2%)，女子：3,842(46.8%)

小学校 2,405(28.8%)，中学校 4,815(57.6%)，高校 1,141(13.6%)

方法：講演を行った際に、承諾が得られた学校に配布および回収を依頼

質問項目：発表スライドもしくは添付資料を参照

- ・いじめ被害の経験（「ある」＋「少しある」）は、全体で38.4%。
→小学生では約半数
- ・いじめ被害のある約3人に1人が「つらくて死んでしまいたい」と思ったことがあると回答。
→いじめられたことが「ある」と答えている場合に顕著
- ・いじめ被害の相談相手として多かったのは、親、教師、友達であるが、教師に相談した結果「問題が大きくなってしまった」というケースが他の親や友達より多い。
- ・いじめ加害の経験（「ある」＋「少しある」）は全体で31.7%。
→小学生では4割
- ・いじめ加害者の約7割が、「いじめをしていた頃、自分も悩んだりつらかったことがあった」と回答。
- ・大人から「やられた時はやり返して良い」「やり返すぐらいの強さも必要」と教わったことがある児童生徒は、小学生35.9%、中学生44.3%、高校生50.2%
- ・いじめ経験を4群（経験なし・被害のみ・加害のみ・被害加害両方あり）に分けると、大人から「やり返して良い」と教わったことがある子どもの割合が最も多かったのは「被害加害両方あり」群であった。
（小学生 44.7% 中学生 54.2%）
- ・いじめの被害加害どちらの経験もある児童生徒は、全体で18.2%。
→小学生では25.5%で4人に1人
- ・いじめが起きた際に、教師に相談したいか、教師による解決をのぞむかについては、いじめの経験がない子、被害経験のある子は比較的ニーズが高いが、一方、加害経験や被害加害両方の経験がある子は教師に対する期待が低い。
→「先生は自分の気持ちがわかってくれる（自分の気持ちへの共感）」についても同様の傾向がみられた
- ・大人から「やり返しても良い」と教わったことのある子どもは、教師によるいじめの相談や解決、そして自分の気持ちへの共感に対する期待が低くなり、特に加害経験のある子に顕著である。